ラグビー日本代表の強化策に関する一考察

A consideration about the measures to reinforcement of the Rugby`s national team of Japan

1K10C010-4　芦谷 勇帆

指導教員　主査　吉永 武史先生　副査　松井 泰二先生

【序章】

2019（平成 31）年に、日本で初めてラグビーのワールドカップが開催される。ラグビーのワールドカップは、オリンピックと FIFA ワールドカップ(サッカー)に次いで、世界のスポーツイベントとしては３番目の規模を誇る。このようにビッグイベントとして注目を集めるラグビーのワールドカップであるが、日本で開催するにあたって、1 つの大きな不安があげられる。それは、ラグビー日本代表が決して「強豪」と言われるようなレベルではないということである。これまで出場したワールドカップでは予選リーグを突破するだけでなく、１つの勝利を獲得することさえ難しい状況にあった(過去のワールドカップの成績は 1 勝 2 分け 21 敗)。競技レベルが決して高くない国で、世界のビックイベントとされるワールドカップを開催する資格は果たしてあるのだろうか。過去のワールドカップはすべて、世界ランキングで上位８位に入る強豪国で開催されてきた。そして、開催国が予選リーグを勝ち上がれずに決勝トーナメント(ベスト 8)に進出できなかったことは、これまで一度もない。このような重い課題を解決していくためには、ラグビー日本代表の強化策を検討し、それを具体的に実行していかなければならない。そこで本研究では、ラグビー日本代表が 2019（平成 31 年）に日本で開催されるワールドカップで勝利を獲得するために、日本代表が今後取り組んでいくべき課題を明らかにし、世界ランク上位国の強化策を分析しながらその解決策について検討していくことを目的とする。

【第1章】

第１章では、ラグビー日本代表の弱点と今後取り組むべき課題について検討した。過去における日本ラグビーの強化策とこれまでの戦績に見る課題を分析すると、過去の日本代表はユース世代から一貫した強化体制がとられていなかったことが明らかになった。そのため日本代表チームは長い間世界の強豪国に勝つことができなかったのである。また、代表チームの成績不振は国内のラグビー人気の低迷をもたらすこととなった。

また、海外の強豪国の選手と日本国内の選手の違いを精神力の面で検討した結果、強豪国はプロの選手がほとんどであり、日本の選手と比べて厳しい状況下でラグビーをプレーしている選手がほとんどであった。

【第2章】

第２章では、ラグビー世界上位国であるニュージーランド、ウェールズ、アルゼンチンの３カ国がなぜ強いのか、その強化策とあわせて検討した。この３カ国に共通している点は、国内におけるラグビーの人気が非常に高く、それぞれの国々でラグビーが文化として定着し、代表チームが国民の誇りとなっているということであった。さらに、ユース世代からの一貫した育成システムが整備されて、国全体で代表チームを強化するための体制が整えられていた。また、ウェールズに関しては、国内でラグビーを普及するための地道な活動によって、ラグビーの競技人口を増やすことに成功していたことも明らかになった。

【第3章】

第３章では、世界上位国の取り組みにみるラグビー日本代表の強化策についての提案を行った。前章より代表チームの強化のためには、ユースからの育成システムを整えることが必要不可欠であること、そして国内でラグビーを文化として定着させなければいけないことから、まずは、国内でラグビーをもっと普及させ、国民のラグビーに対する愛好度(人気)を向上させていくことを提案した。国内でのラグビー人気を高めていくため、代表チームが強いことが必須条件となる。現在の日本の代表チームの強化システムは、世界の強豪国と比べて、まだ遅れをとっている。近年はかなり改善され、強化システムは整備されつつあるが、もっと強豪国から学び、さらに改善を図っていく必要がある。